

インタビュー	P.1
次世代に期待され、選択される大学へ 実学主義で進化遂げる来年度から「生命科学部」新設 東京農業大学理事長 大澤貫寿氏	
★News	P.5
早急に対応が迫られる生き残りへ、私学の40%が定員割れ	
インタビュー	P.6
帝京大学が取り組むファシリティマネジメント 全教職員で「いい大学」をつくる 学校法人帝京大学本部事務長 船坂則夫氏 学校法人帝京大学特任アドバイザー 和泉 隆氏	
★資料	P.10
平成29年度文部科学省高等教育局私学部関係概算要求 から見る「私立大学等改革総合支援事業」などについて	
★建物の環境評価指標について	P.12

Campus Management Report 21

No. 7

キャンパス マネジメント リポート 21

インタビュー

次世代に期待され、選択される大学へ

実学主義で進化遂げる来年度から「生命科学部」新設



(学)東京農業大学理事長
大澤貫寿氏

東京農業大学は、実学主義の理念を掲げて歴史を重ね今年で創立125年目を迎えた。わが国最大の農業系総合大学で、海外でもNODAIで通用する。農学は、まさに未来を開くカギである。農・食・健康・環境・バイオエネルギーなどの領域から広がる未来へ、進化する東京農業大学の将来像を、大澤理事長に語ってもらった。

皇室とのつながりも深い

今春、125周年記念式典を、秋篠宮文仁親王のご臨席のもとで、盛大に開かせていただきました。ご承知の通り、秋篠宮文仁親王は、ナマズの研究をはじめ、動物や植物に関心と造詣が深くいらっしゃいます。本学の客員教授として、学生にご講義を賜り、年に一度は、北海道網走市の本学オホーツクキャンパス(生物産業学部)にも、おいでいただいております。さらに、ご研究のお手伝いについても、本学に拠点を設けているほど親密で、式典のごあいさつの中でもわざわざ「わが大学」と紹介され、感激した次第です。やはり、本学への特別な思いをお持ちいただいているようです。

もともと、本学と皇室のつながりは

深く、設立時は、東京府渋谷村(現渋谷区)常盤松の御料地内にあったこともあり、ルーツとなる大日本農会の歴代総裁も皇族(現在は、秋篠宮文仁親王)であることから関係の深さを感じますね。

“生みの親”榎本武揚と “育ての親”横井時敬

東京農業大学は、明治24(1891)年に、徳川育英会を母体とした私立育英農科として設立されました。創設者は、明治政府で文部、外務大臣などを歴任した子爵の榎本武揚公です。榎本公は、徳川幕府の留学生としてオランダでヨーロッパの先進科学技術と国際法を学んだ、近代日本創生期の国際人でした。また、当時のロシアと千島・樺太交換条約をまとめ

て、世界の強国であった帝政ロシアの脅威を取り除き、今日ある日本の基礎を築いた人物でもあります。とくに、オランダ留学の際に、世界の列強の中で、わが国が近代国家としての地位を確立するためには、国力の一翼を担う農業の重要性を強く認識して、本学を設立したわけです。



創設者 榎本武揚公